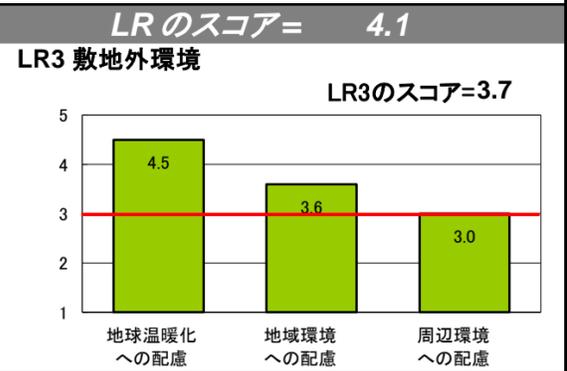
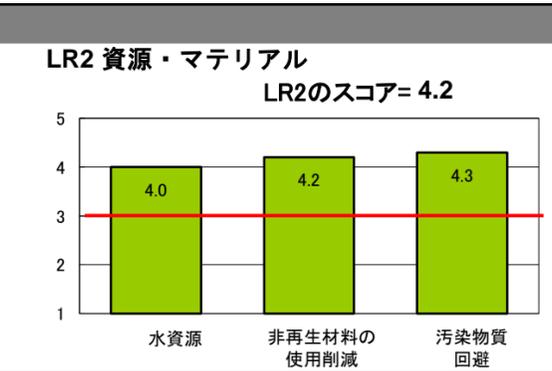
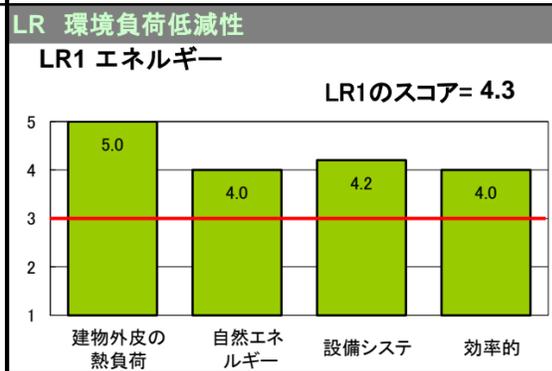
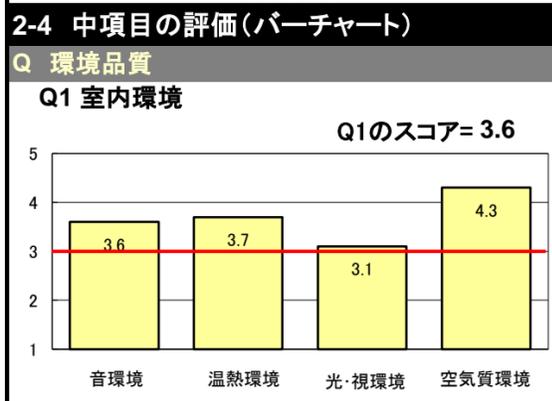
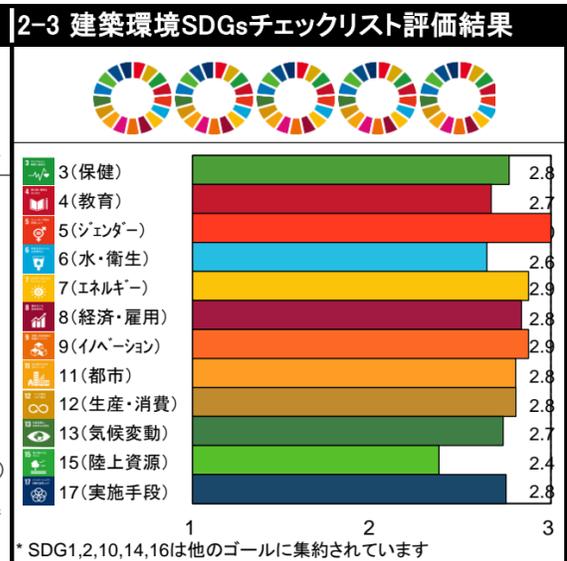
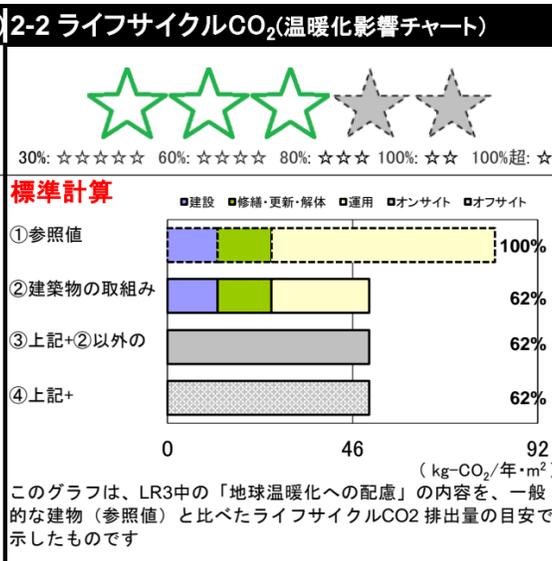
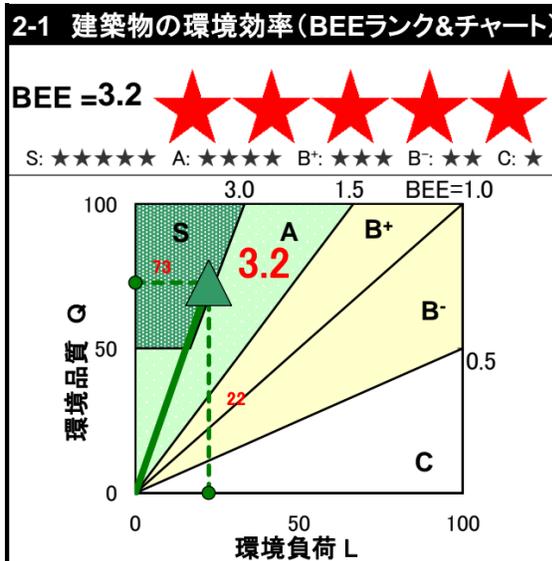


# CASBEE® - 建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追加版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新千葉県立図書館・県文書館複合施設	階数	地上3F
建設地	千葉県千葉市中央区青葉町977番1	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、建築基準法	平均居住人員	600 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年11月 予定	評価の実施日	2025年1月31日
敷地面積	18,500 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社日本設計
建築面積	7,470 m <sup>2</sup>	確認日	2025年2月3日
延床面積	18,921 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社日本設計



### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
公園に建つ県立図書館・県文書館を多様な知的活動の拠点の場として計画している。貴重な資料を収蔵する施設であり、事業継続性等の面からも免震構造を採用した。図書館・文書館としての室環境特性を踏まえた空調・換気システムとしている。読書環境に適した照明計画を行い、公園への豊かな眺望の確保と照度確保が両立した計画としている。	大規模公園内を計画地としているが、敷地については既存の公園と共存しその豊かな環境や眺望を建物内に取り入れることのできる位置としている。
<b>Q1 室内環境</b> 2・3階利用エリアは、吸音と意匠を両立した大壁面、ルーバー裏のグラスウールにより音環境を構築。床吹出しによる効率的な空調、ペリメーター部には輻射空調を併用。閲覧席はTAL方式500lx、TLから昼光利用。	<b>Q2 サービス性能</b> 基礎免震構造を採用し、上部構造の建物全体および内部設備や書架等の家具に対して高い耐震性能を持たせている。光環境を反映した3DCGIによるシミュレーションを行い照明と内装を一体的に設計した。
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外部の庇や塗装など地域性を踏まえた素材を採用するなど景観に配慮した計画としている。屋内空間と連続するテラスを設け、建物内外で賑わいが連続するような計画としている。	<b>LR1 エネルギー</b> 大空間における環境に配慮した自然採光・換気計画としている。断熱性の高い外皮計画、高効率な熱源・空調システムや適切な照明計画により、ZEB Readyを達成。さらに太陽光発電パネルを130kW設置、創エネを行っている。BMSを導入し、竣工後も運用改善が可能。
<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型器具の採用、雨水の雑用水利用を行っている。書庫は不活性ガス(窒素)消火とし、フロン・ハロンを排出しない計画としている。冷媒はR32とし、冷媒漏洩による環境影響を抑えている。高強度コンクリートとプレストレスの使用により、躯体の断面縮減と高耐久化を図っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を一般的な建物同等以上や大気汚染物質を発生させる機器を使用しないなど環境に配慮した設計としている。駐車場や駐輪場を適切に計画し、周囲への交通負荷に配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される